

## 市民環境部会 会議録

（出席者） 委 員：8名  
 事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）  
 アドバイザー：1名  
 ファシリテーター：1名

（会議の内容）

### 1. はじめに

資料1に基づき、第5回まちづくり市民会議（第4回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料2に基づき、第6回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

### 2. 「市民協働モデル事業」の選定

資料2に基づき、「市民協働モデル事業」の内容を事務局から説明しました。

説明された「市民協働モデル事業」について、シールを使った投票方式で、「市民協働モデル事業」を決定しました。

■投票結果（赤シール：第1希望、5点換算、黄シール：第2希望、3点換算）

市民協働プロジェクト 名称	赤シール	黄シール	合計点数
①田原を美しくする運動推進事業	5	2	31
②菜の花エコプロジェクト推進事業	0	1	3
③エコ・ガーデンシティ構想推進事業	0	0	0
④海が生き、海を生かして創るまちづくり推進事業	4	1	23
⑤季節の花リレー事業	0	5	15

### 3. グループワーク

決定された「市民協働モデル事業」について、2グループに分かれてKJ法によるグループワークを行いました。

■メンバー

	グループ1	グループ2
委員	河合（克）委員、川口委員、鈴木（昌）、鈴木（吉）委員、岩崎アドバイザー	安田委員、清水委員、金原委員、長谷部委員
事務局	渡邊、朽名、江口（JP総研）	杉浦、中川

#### **4. アドバイザー総括（岩崎アドバイザー）**

このグループワークに参加して、環境学習の話がとてもいいと思った。環境学習は2つの軸があるのではないかと思う。1つはプロジェクトという軸。これは事業を計画して達成する、目的をしっかりと定めて進んでいくという側面だ。もうひとつは学びや人づくりという側面。これは最近、大学でもよく行われるようになってきているPBLもしくはPBE（プロジェクトベースドラーニング、プロジェクトベースドエデュケーション）というもので、まさにこれが環境学習を体現している。

PBLの話の伺い、新しい仕組みを立ち上げるということではなく、既存の組織・自治会などをはじめ、学校等を上手く活用すべきだと思った。

人に関していえば、「子どもの審査員」など、子どもにイベントを企画させるといったアイデアが出ていた。今後、全世代がプレイヤーとしての役割を担うことが重要になるが、子どもの位置づけはとて大きくなるだろうと改めて感じた。その方法の一つとして伝統が出ていたが、きっかけづくりをするには伝統を通して「楽しみながら参加する」というものを立ち上げることが重要になると感じた。

今日は行政の支援に対する意見があまり出なかった。行政が足を引っ張っているというような意見もあったが、私はやはり行政はプラットフォーム的な役割を果たすと考えている。したがって「いろいろな人たちをつないでいく」という、この役割を行政が果たさなければ市民協働は進んでいかないと考えている。

いずれにしてもゴミを拾うといった清掃活動は、どちらかというと消極的・ネガティブに感じられる。問題があるからそれを取り除くというニュアンスである。そのような視点からではなくグループワークの最後の方に出た「田原のよさを活かす」という、よりポジティブな方向に向かうなかで、一人ひとりの意識が育まれていけばいいと思った。

#### **5. その他**

次回開催日程は、8月21日（火）からに決定しました。各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

グループ1

市民・地域・団体

行政の支援

1 きっかけづくり

いろんな人の集まりを好きな花で作りたい。  
子ども～大人でチーム作り  
(ササユリ・あじさいチーム etc)

地質、水の流れ、山、地域の特性を学習することで自分の住む環境を見直す  
(そのことで楽しさを知る)

田原の自然の現状をみんなで知る

まずは草取り

【具体的に】  
美しくするというのが抽象的で「そうじしよう」だけの言葉にとられてしまいがち

保身に回らない対応・意欲を引き出す人間性と役割の自覚

やらされ感を感じないための楽しいゴミ拾いアイデア

【環境教育】  
どうして美しくするのか。汚い、美しいをどう感じるか

全体の中の地域のとらえ方を見直す。地形、水の流れなど

口コミ有効  
いろいろな年代が必要

役割分担をきちんと決める

2 しくみづくり

モデル地域の選定

【まずは自分の所から】  
目に見えるところからきれいにしていく

子ども土づくり体験会

具体的にどこに興味があり、何がしたいかを自分の事としてとらえ、チームを作る

目に見えるところから

自治会が主体で進める

ネーミングを募集したい

3 継続のために

【地域との交流】  
世界と刺激し合う

【環境教育】  
どうして美しくするのか。汚い、美しいをどう感じるか

行政を振り向かせる活動を行う

行政側のネットワークをしっかりとつくる

目的を明確に!!

【達成感】  
楽しくないといけない

同じレベルで競い合う。理解しあえる

4 活動のさらなる発展

海外留学生を清掃活動にとりこむ

子ども審査員できれい発見!!

活動のPRがどれだけできるか

きれい自慢・お花自慢の企画、コンテスト

相互刺激

グループ2

市民・地域・団体

行政の支援

1 きっかけづくり

家の周りに花を植える

家の近くの草を各自がとる

渥美半島に住んでいる人たちに渥美のよさを再認識してもらう

プレーヤーを増やすためには？地域の推進システムの中で学ばせる

参加しよう、行ってみようと感じる場の設定

イベント開催

行政は草を無料で受け取る

行政から関係団体への依頼

同じ歩調で活動をすすめるために…

まずは、今の自治会・校区での活動を継続する

2 しくみづくり

渥美の良さを知ってもらうために、良さを知っている人を中心に輪をひろげていく

目的をしっかりと理解してもらうことが大事

事務局を田原市役所に置く

市民館などとの連携を強めて、地域人材の情報を収集する

参加するメリットをつくる（エコマネーなど）

環境に関する新しい組織をつくる

点を線にしていく

3 継続のために

活動の負担にならないためにいくつかのセクションを設ける（地区、美化、学習 etc）

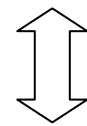
広報で「この地区こんなにきれい」的な紹介記事を

アダプト制度のさらなる浸透

「美しくする日」を月1回にする

単発的な運動はダメだと思う。（例えば、推進デイ6/4）

田原のよさを感じ伝えるプロジェクト



4 活動のさらなる発展

大人から子どもへ思いをつなぐ活動